

佳作

奇跡

長崎県 諫早市立北諫早中学校三年 服部 嘉花

私の弟は、体重四百六十グラム身長二十六センチの超低出生体重児で生まれてきました。お母さんのお腹の中で上手く成長することができなかったため、予定日より三ヶ月も早く生まれてきました。

五百グラム未満で生まれてきた未熟児の生存率は約六十パーセントで、生まれてすぐにNICUという集中治療室の中に入っていたそうです。弟は今までに見たことがない赤ちゃんで、家族みんな毎日毎日とにかく生きてと願うことしかできませんでした。

生後一ヶ月頃に循環不全感染症になってしまい、おしっこが上手く出なくなり体が風船みたいにくらんで、低酸素状態になりました。これが原因で脳に障害が起き脳性麻痺になりました。生まれてからずっと入院生活が続ぎ、生後十ヶ月でやっと退院することができました。弟が家に帰ってきた時は、家族みんな喜んでいました。私は、弟とやっと一緒に

暮らすことができて嬉しかったし、弟が可愛いくて

いつも弟のほっぺを触っていました。それからすぐに弟の様子がおかしいことに気づき病院で見てもらったら、指定難病である点頭てんかんと診断されました、てんかんを抑える薬や注射などの治療が始まりました。この病気は成長が後退する病気で、座りかけていた首がグラグラしてしまったり、笑っていたのが全く笑わなくなったりしてしまいました。弟には薬や注射の治療の効果が無かったため、脳梁離断という左右の大脳半球を結ぶ脳梁を切断する手術を行いました。この時はまだ、一歳八ヶ月という幼さで、頭を切って行う手術と聞いた時は怖かったし、とても心配でしたが、無事に手術が終わり安心しました。手術をしてもてんかん発作が続く子もいますが、弟は発作がなくなり成長が進むようになりました。

重度の障害はありますが、こうやって生きていけるのは本当に奇跡だと思います。弟はゆっくりですが少しずつ成長し、今年で小学二年生になりました。今ではよく笑うし、自分の感情を表してくれます。また最近両足の手術をして、しっかり足の裏をつけて歩けるようになるためのリハビリをしています。弟がたくさん痛い思いをしながら頑張っている姿を

見ると、私ももっと頑張らないといけないなと思います。

弟と会えるのは、年に数十回くらいしかないので、弟と会えた時は本当に嬉しいし、弟の成長を見られるのが毎回楽しみです。今年の夏休みは、一緒にプールへ行きました。弟はとても喜んでいて大はしゃぎでした。弟が喜ぶ姿を見る度に元気を貰うし、弟の笑顔は周りにいるたくさんの人を笑顔にさせてくれます。私はそんな弟が大好きで、今こうやって元気に生活できるのは奇跡だと改めて思いました。弟が生まれてから、小さな事にもたくさん喜びを感じます。これからは、小さな喜びも大切にしていきたいです。